

いま いま
宮城は現在も現実に立ち向かう。

2016.7.11

NOW IS.

Vol.
3
毎月11日発行
ナウイズ

in 岩沼



困っている人の縁をつなぐことで被災地域を、生きやすい場所に。



地域と人、仕事を結ぶため
カフェや農地運営を開始。

東日本大震災は、これまで沿岸部の自治体が抱えていた問題の進行を、顕在化させました。耕作放棄地の増加や社会的弱者の就業。その問題に、農業と福祉を連携させた取り組みで立ち向かっているのが、「じえるぶ岩沼の小濱さん」です。「津波で何もなくなってしまった土地と、困っている方の力を組み合わせることで、みんなが生きやすい場所を作れるのでは、と思っています」。

という相談です。小濱さんは、障がいを持った人や引きこもりの人、ひとり親家庭の人などを農業とマッチングできないか、と考えました。「さまざまな事情で働けない人も、人のために役に立ちたいという切実な願いを持っています。彼らの縁をつなぐことで、お互いに支えあう関係になれば」と考えました。「まずは、地域に根づくため、今年の春、田んぼにみんなで苗を手植えしました。機械に頼らず育てるため、管理は大変ですが「やりたい気持ちを大切に、無理をせずに作業しています」。

まず着手したのは、空き民家の活用。困っている家主さんと、カフェをやってみようという人をつなぎ、「えんがわカフェ」をオープンしました。岩沼のお米で作った米粉麺や自家栽培の野菜を使用した料理が評判となり、客足は上々。地元の方から情報を得る機会も増えました。そうしたなか、舞い込んだのが「耕作者がいなくなった田んぼをどうにかできないか」

昨年からオリーブの事業にも着手。葉はお茶として、実は油やピクルスなど、さまざまな方法で販売できます。20本ほどの苗は、まだ子どもの背丈ほどですが、夢はもっと広いオリーブ畑をつくること。「私たちは震災で、自分たちも自然の一部だ、ということに気が付きました。土地と人とを結びつけることで、岩沼に元気を呼び込めたらと思っています」。



今年の春、子どもたちも交えて苗を植えた。

オリーブの葉は5年、実は10年ほどで収穫できるようになる。

じえるぶ岩沼／東北茗荷村代表
小濱 裕美 さん



NOW IS IWANUMA NOW IS IWANUMA NOW IS IWANUMA NOW IS IWANUMA

NewsPaper 岩沼市 Pick-Up

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。

大津波に破壊された防潮堤

震災翌日、岩沼市東部の玉浦地区に入った記者が、その津波被害の様子を記した平成23年3月15日の記事。「開通した道をたどって津波後初めて海岸線に足を踏み入れると、防潮堤は破壊され、コンクリート護岸が約50m内陸側に流されていた。津波から住民を守る人工建築物は巨大津波という自然威力に対して無力だった」と書かれている通り、防潮堤は無残に破壊され、コンクリートの塊が折り重なった写真が掲載されました。

岩沼市の津波による浸水面積は市域の約48%。これは被災した沿岸市町村で最も高い割合となっています。写真の玉浦地区も一時は孤立。県南浄化センターの処理機能が停止するなど、ライフラインも打撃を受けました。



千年先を見る復興プラン

平成28年5月29日の記事には、前日に「千年希望の丘」で行われた植樹祭の様子が掲載されました。「千年希望の丘」は、丘と緑の堤防を連結させることで津波の威力を減衰し、避難場所としても活用できるよう、岩沼市が造成中の緑の防潮堤。丘の土台に震災がれぎを活用することで、千年先まで津波の痕跡や被災者の想いをつなげようと考えられています。

平成25年に始まった植樹祭は、今年5月の開催時点で4回目。これまでに延べ約2万9500人の参加者が約25万本を植栽しました。「千年希望の丘」では今後も植樹祭を開催予定。大津波により沿岸部の美しい姿は一変しましたが、より良い岩沼をつくる先進的な復興モデルは、着実に歩みを進めています。



※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。

一つひとつの契約が復興と市民の喜びに。

坂牛さんが派遣職員として岩沼市を訪れたのは、震災から2年が過ぎた平成25年4月。以後、3年にわたって、避難拠点やかさ上げ道路などを作るための用地買収に携わっています。

書類上相続がされていなかったり、地権者の同意がなかなか得られなかったりと、簡単には進まない用地買収の事業。それでも、岩沼市では1年間に約200〜400件のペースで土地の売買契約を行っています。「人が相手の仕事なので、お互いに納得して契約するというのが大切なんです。地権者の多くが被災した方なので、じっくりお話を伺うようにしています。中には、震災時の経験をたくさん話してくれる人もいます。『当時大変だったことや、家族のことをお聞きすることができました。お互いに気心知れた関係になってから契約を結べれば、今後、その方との付き合いもスムーズ』

「人が相手の仕事なので、お互いに納得して契約するというのが大切なんです。地権者の多くが被災した方なので、じっくりお話を伺うようにしています。中には、震災時の経験をたくさん話してくれる人もいます。『当時大変だったことや、家族のことをお聞きすることができました。お互いに気心知れた関係になってから契約を結べれば、今後、その方との付き合いもスムーズ』

「人が相手の仕事なので、お互いに納得して契約するというのが大切なんです。地権者の多くが被災した方なので、じっくりお話を伺うようにしています。中には、震災時の経験をたくさん話してくれる人もいます。『当時大変だったことや、家族のことをお聞きすることができました。お互いに気心知れた関係になってから契約を結べれば、今後、その方との付き合いもスムーズ』

4年で1200件以上契約。市民が納得できる用地買収を。

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

02

この人がこの町を盛り上げてます！



岩沼市建設部用地課
坂牛 裕さん (青森県青森市)

用地課には、坂牛さんのほかにも山形県尾花沢市などからの派遣職員がいる。



AR 定点観測

Look at Miyagi

現在の岩沼市

撮影地点 仙台空港

宮城県南部の太平洋沿岸、阿武隈川河口の北岸に位置する岩沼市。ここには名取市とまたがるかたちで、海に近接する仙台空港があります。震災で発生した大津波に空港はのみ込まれ、使用不能となりました。しかし、半年後には空港ビルの完全復旧と全定期便の運航再開を果たし、復興の象徴となった仙台空港。今日、1日、仙台空港は国が管理する空港の民営化第一号として、新たなスタートを切りました。民間のノウハウを生かした一体的な空港運営が実現されることで、国内外からの交流人口の増加が期待されています。



(写真提供：岩沼市)



無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在(平成28年6月)の岩沼市をご覧いただけます。ぜひ、被災地の移り変わりをご覧ください。

COCOAL2のダウンロードは「Google play」「App Store」から
COCOAL2に対応していない端末もごさい。

無料アプリココアル2をダウンロードしてご覧ください。

明日への取り組み：むすび塾

河北新報 防災・減災 巡回ワークショップ

人のつながりを強め、災害に強い街に。



今回の「むすび塾」は、平成28年6月19日、山元町の「つばめの杜地区」で開催されました。この地区は、12月末に再開予定のJR常磐線新山下駅近くの、被災した住民の集団移転地。5月末時点で、分譲宅地と災害公営住宅に439世帯970人が住んでいます。

この日のテーマは、復興まちづくりが進む新しい街の災害対策。事前に行ったアンケートへの回答も交えながら、住民13人を含む16人で話し合いが行われました。自己紹介を兼ね、震災当時の状況や現在実行している防災の備えなどを一人ひとり発表。「水をタンクで貯め、定期的に入れ替えている」、「車に毛布や防災グッズを入れている」などの声が聞かれる一方、「公営住宅は狭いので、備蓄は難しい」との指摘も出ました。

災害に強いまちづくりには、人と人とのつながり＝コミュニティづくりが欠かせません。新しいこの地区は、ひとり暮らしの高齢者が把握されていないなどの懸念が多く、対策の遅れを不安視する意見も相次ぎました。進行役の減災・復興支援機構の木村拓郎理事長は、「住民同士の交流の活性化が欠かせない」との考えを強調し、全員参加型のまちづくりを実現するために、高齢者の安否確認を盛り込んだ防災訓練の実施を提案。また、住民アンケートを実施して、その結果をまちづくりに反映させていくことなどを助言しました。参加者は「地区の通りに愛称を付けるというアイデアはユニーク。愛着が増し、いざ避難という時も説明しやすくなる」と実現に意欲をみせています。

共に助け合う精神を養うことは、防災訓練など防災・減災の取り組みへとつながるので、普段から地域のつながりを深めることが大切です。



今までの「むすび塾」の記事は河北新報社のwebサイトでご覧いただけます。



<http://www.kahoku.co.jp/special/bousai/>

むすび塾とは

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社が開催する巡回ワークショップ。「いのちと地域を守る」キャンペーンの一環として、平成24年5月から月1回、町内会や学校、企業などで開催し、平成28年6月で通算56回目となりました。目的は、対談を通して震災時の教訓や減災・防災への備えを、あらためて考え直すこと。ワークショップの様子は、河北新報紙面でも公開し、防災や復興への行動を後押ししています。

STAFF'S VOICE 取材こぼれ話

編集後記

方向オンチにとって、被災沿岸部の取材は試練の連続。自分の記憶はもとより、カーナビの地図もあてにならない...というパターンが多いのですが、特に今回の岩沼市は強敵でした。できた

ての玉浦西地区はもちろん、「千年希望の丘」も新しい丘が増え続けていて、なかなか目的の場所にたどり着きません。親切な地元の方に助けられ、無事(?)取材してきました……。

とはいえ、それもこれも、復興がどんどん進んでいるからこそ。新しい道が、新しい地域をつくっていくのですね。次号は、東松島市と松島町を紹介いたします。お楽しみに!



見える岩沼で。自家栽培の梅の天日干し中

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) **10,551人** | 行方不明者数 **1,236人** 平成28年5月31日現在 宮城県危機対策課調べ

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

NEWS 01 被災者の安定的な雇用の創出を支援します!

NEWS 01 被災者の安定的な雇用の創出を支援します!
県では、宮城県事業復興型雇用創出助成金の申請を受け付けています。
この助成金は、県内の沿岸部に所在する事業所において、平成28年1月1日以降に被災者を雇用した事業主を対象としており、労働者1人当たり最大120万円を支給します。受付は7月29日(金)までです。
なお、申請には一定の要件がありますので、詳しくはホームページまたは、下記にお問い合わせください。



●株式会社インテリジェンス 宮城県事業復興型雇用創出助成金事務センター
☎.022-722-6322
●県雇用対策課
☎.022-797-4661
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koyou/jyousei-top.html>

NEWS 02 応急仮設住宅の入居期間延長について

NEWS 02 応急仮設住宅の入居期間延長について
応急仮設住宅の入居期間について、延長することを決定しました。
お手続きについては、順次入居者や貸主の皆さまへご案内します。延長とならない方には、入居期間終了についてご案内します。



●石巻市、名取市、女川町で被災された方 / 1年間延長
●塩竈市、気仙沼市、多賀城市、東松島市、山元町、南三陸町で被災された方 / 特定延長の対象と確認された方に限り、最長で平成30年3月31日まで延長
●県震災援護室
☎.022-211-3257
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/engo/>

NEWS 03 岩沼駅前活性化事業「いざなり冷っこいルービー飲むすべ?!」

NEWS 03 岩沼駅前活性化事業「いざなり冷っこいルービー飲むすべ?!」
岩沼市商工会青年部では、復興まちづくりを進める中、交流人口を増やすため、JR岩沼駅前で、地元で活動をしているユニークな人物やおいしいグルメなど、岩沼の魅力発信するイベントを開催します。夏の暑いこの時期、冷たい生ビールを片手に地域の人の親睦を深めるイベント。市外の方もぜひご参加ください。詳しい内容は岩沼市商工会にお問い合わせください。



日時/7月22日(金)15時~21時
場所/JR岩沼駅東口駅前広場
●岩沼市商工会
☎.0223-22-2526

NEWS 04 岩沼の元気をここから。「いわぬま市民夏まつり」

NEWS 04 岩沼の元気をここから。「いわぬま市民夏まつり」
「いわぬま市民夏まつり」は、震災後「いわぬま復興夏まつり」として行われてきましたが、玉浦西地区のまちびらきを区切りに、昨年からの震災前の名称で開催しています。
ステージイベントや青空テント市など盛りだくさんの内容。姉妹都市である尾花沢市の特産品なども並びます。フィナーレの盆踊りと打ち上げ花火は、コミュニティの絆を深める場にもなっています。



日時/8月20日(土) 13時~21時
場所/岩沼市役所前広場ほか
●岩沼市商工会
☎.0223-22-2526

NOW IS / MIYAGI MEDIA INFORMATION

SNSで宮城の「いま」を発信

宮城県震災復興本部のSNSでは、皆さまが撮影した被災地の画像も募集中。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、ご自身のアカウントで投稿してください。集まった写真は、年度末に発行予定の記録集などで使用させていただきます。



各SNSの検索窓で

総合情報はポータルサイトで

宮城の復興情報を集約する「みやぎ復興情報ポータルサイト」を開設しました。復興に関するお知らせや、復興の進捗状況、NOW IS取材チームによる復興に関するブログもスタートします。



みやぎ復興情報ポータルサイト <http://www.fukkomiyaagi.jp>

NOW IS.

防災

もしものときにあなたを守る、
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

Theme ③ 避難

揺れがおさまったら、次に起こすべきアクションは“避難”。
自分で調べて避難の判断をすることが、身を守ることに繋がります。
もしもの時に、慌てないで行動できるように。
普段から、避難の心構えを頭に入れておきましょう。

情報収集



正しく役立つ避難情報は
音声+文字で手に入れる!

すぐ耳に入るラジオや防災行政無線などの音声と、何度も確認できる緊急速報メールやSNSなどの文字情報。二段構えの情報収集で、二次災害の危険性や避難指示など、詳細な情報が入手できます。

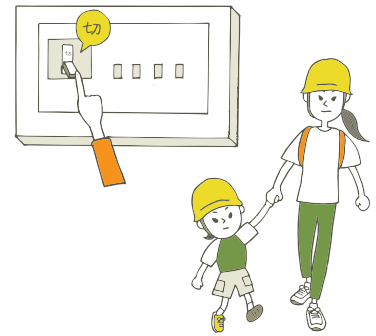
避難場所



避難所は事前にチェック!
自宅待機も避難行動の一つ

自宅や勤務先の緊急避難場所や避難所は、日ごろから自治体ホームページなどで調べておくことが必要。災害が起きて慌てて避難所に向かうのではなく、自宅が安全であれば自宅待機に努めましょう。

避難の注意



留守中の二次被害を防止!
避難中のケガにも要注意

自宅を離れる時は、ブレーカーを落としたりガスの元栓を閉めることを忘れずに。避難する時は動きやすい服装で、落下物から頭部を守るヘルメットがあればベスト。なければ厚い雑誌でも代わりになります。

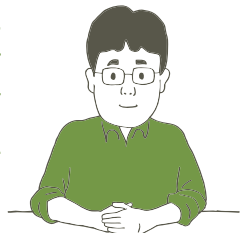
取材協力：東北大学災害科学国際研究所 安倍 祥 助手

防災コラム Vol.3

- ★揺れてから情報収集…では遅い!
- ★避難のパターンは複数考えよう!
- ★外出先ではまわりの人にも頼ろう!

自宅や勤務先はもちろん、旅行など外出する時も、その土地の災害や避難場所の情報は事前に調べておきたいところ。津波・土砂災害・水害など、災害の種類によって安全な場所は異なります。避難の選択肢はその点も踏まえて複数パターン考えておきましょう。もちろん知らない土地では、より詳しい地元の人に聞くなど、まわりの人に頼ることも必要です。

東北大学災害科学国際研究所
安倍 祥 助手



地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門に所属。自治体や地域の防災訓練、避難計画づくりに取り組んでいる。

NOW IS. ③

昨年度までの「みやぎ復興プレス」をリニューアルしました。

発行：平成28年7月11日 宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2443 Fax:022-211-2493

「復興情報発信プロジェクト NOW IS.」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government